

第六卷

説明

△第一圖を見よ、第一卷より第五卷までにて
白の第四珠が『い』より『ほ』
に至る五ヶ所に來る分を各
々説明し盡したり、然れど
も猶ほヘトチリの四ヶ所に
來る場合も無きに非ず
第一卷より第五卷までを讀
みて條理の如何を心得たる人は最早や充分に
獨力を以て『ヘトチリ』四ヶ所を打こなし得る
筈なり、然れども著者の老婆心、聊か未だ安
ぜざる者あり特に第六卷を設け一纏めにして
大要を示すと爲せり
△更に第二圖を見よ『へ』と『ち』の外に
猶ほ突飛なる所を狙ふ者ある可きを豫想し更

第一圖

へろり
はほい
トにチ

に『ぬ』を加へて五ヶ所としたり

第二圖

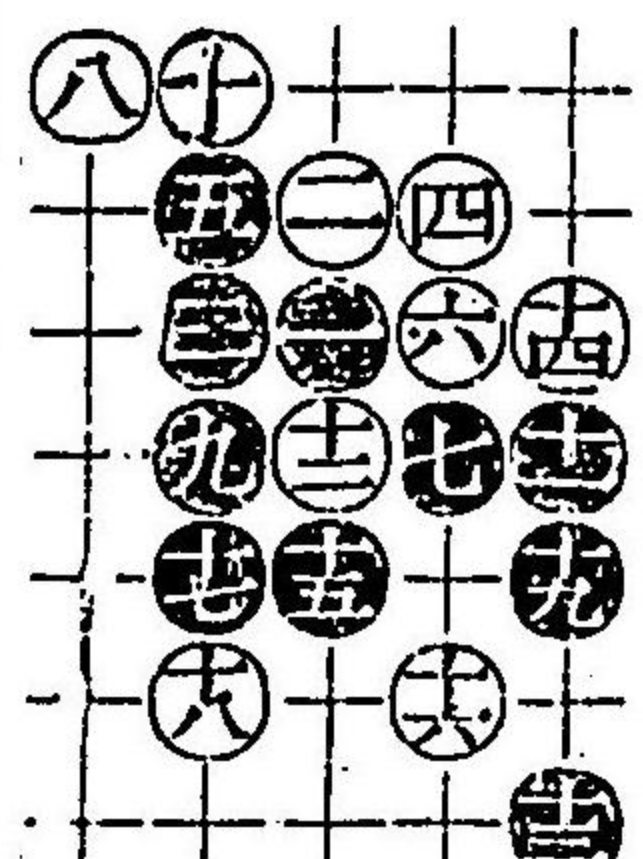
小目錄

へろり
ハロイ
ハホイ
とニチ

右の順を追ひ打示す

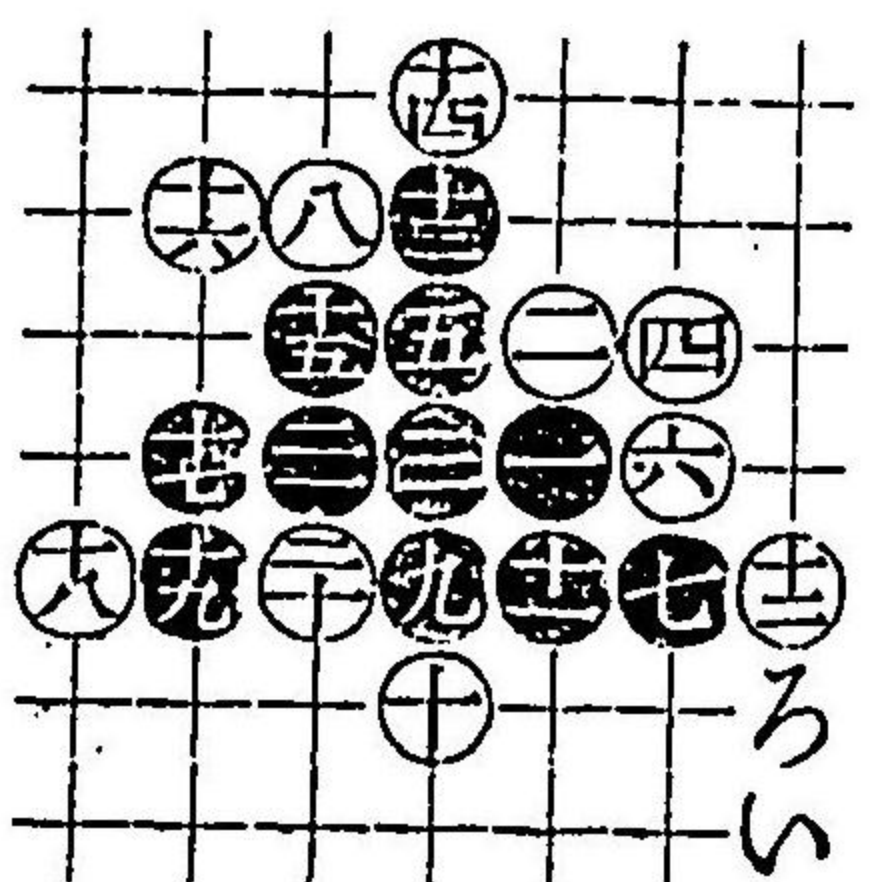
△白四の來る所
へ、一番より
と、六番より
ち、十二番より
十五番まで
り、説明
ぬ、十六番より
十九番まで

四第一番の一(十九珠)



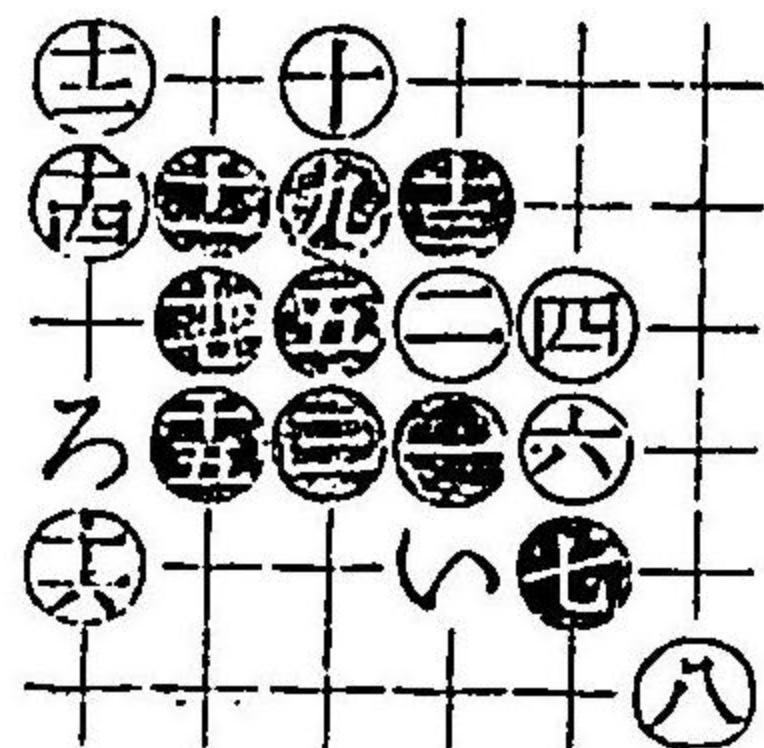
△白の第四珠が第二
圖の『へ』に來りたる
なり
△次は十待た

十第一番の二(廿一珠)



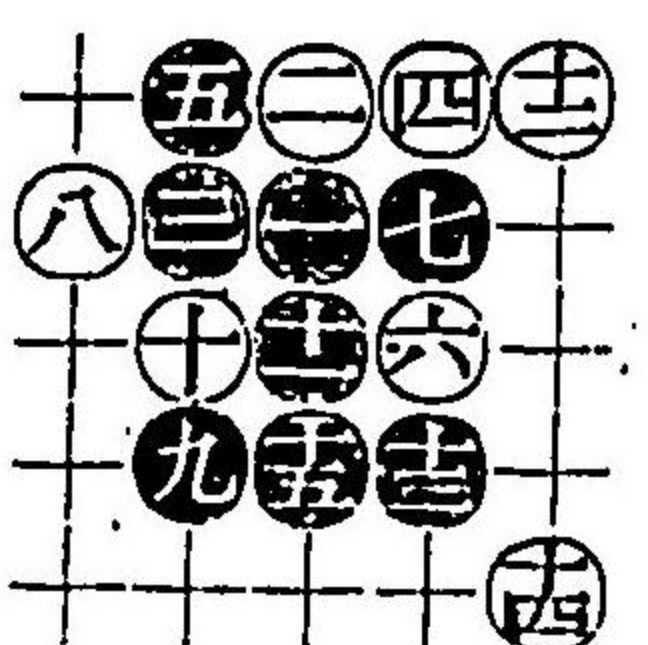
△十の待たなり
△十二反對ならば
『い』ろ、十二と打
つ
△次は八待た

八第一番の三(十七珠まで)



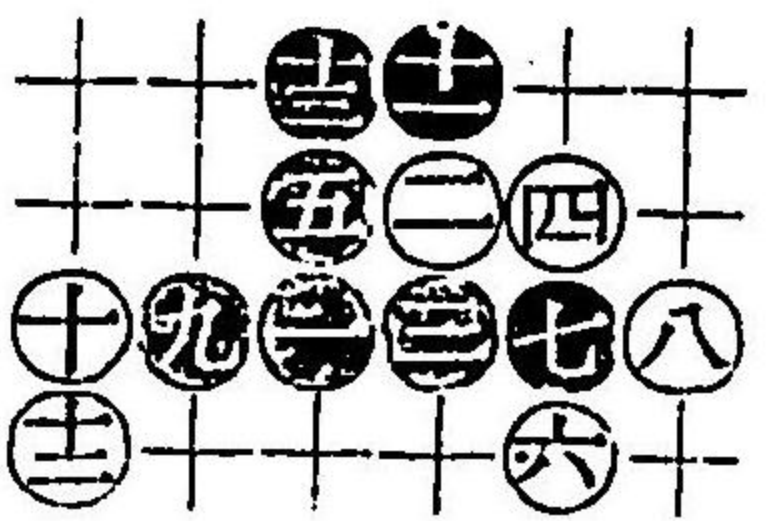
△十四反對ならば十
五を『い』に打つ
△十反對ならば『十
一、十四、十七、十五、
ろ』と打つ
△次は六の變

六第二番の一(十五珠まで)



△六の變なり
△第一卷の局面と同條理
なり
△次は八待た

八第二番の二(十二珠まで)



△八の待たなり
△十三珠に至り第二卷の第
十八番と同一となる
△次は六又待た

六第三番の一(十五珠)